

(2) 現場番号 324

広島 国有林_541 林班そ小班 現地見学会実施現場

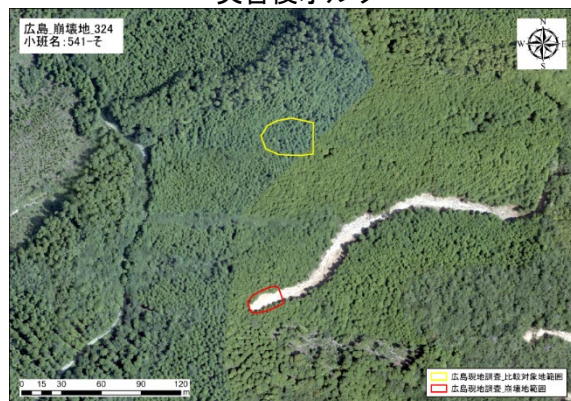
【コメント】

崩壊・根系) 現地調査の崩壊深度から 1m 程度と想定される。24 年生と若く、根の伸長は 0.5m 程度に留まる。国有林の調査地はすべて花崗岩・マサ土の土質・地質ではない。

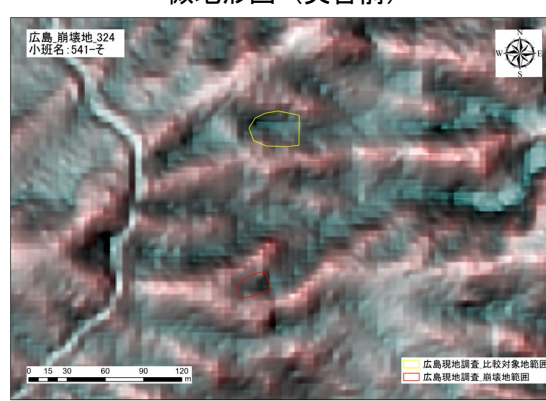
森林・施業) 造林簿、林班沿革簿から除伐回数が 2 回、13 年生時と 19 年生時に実施している。災害発生時は施業から 5 年経過している。植栽配列なども含めて調査すると立木密度は 2,500 本/ha 相当である。立木密度は LP との差が大きい。除伐を 2 回行っているにしては、崩壊地周辺の立木密度は高い傾向がある。同一小班ではもう少し立木密度が低い箇所が多かった。

その他) 2 月 3 日の現地検討会にて視察を行った現場である。

災害後オルソ



微地形図 (災害前)



崩壊地全景



現地写真 崩壊地



小班	541_林班_そ	
樹種	ヒノキ	
林齢	24	
最終施業年	2013除伐	
崩壊幅[m]	12.6	
崩壊延長[m]	37.5	
崩壊面積[m2]	1747.0	
尾根谷度	平均	3.1
傾斜[度]	平均	29.9
雨量[mm]	72時間	422.6
地質	デイサイト・流紋岩 大規模火砕流	
森林土壌	森林簿	

		LP	現地
崩壊深度[m]	源頭部	1.2	1.0
	平均値	2.3	
	中央値	2.6	
	最大値	3.2	
	根系深度		0.5
土検棒[m]	平均		0.7
	最大		1.2
毎木調査	平均胸高直径[cm]	14.3	13.9
	平均樹高[m]	10.2	9.5
	立木密度[本/ha]	1,733	2,500
	断面積合計[m ² /ha]	27.8	52.7

(3) 現場番号 1003

広島 国有林_540 林班は小班

【コメント】

崩壊・根系) 現地調査の崩壊深度から 2m 程度と想定される。調査した国有林の中では 34 年生と最も林齢が高い。根の伸長は 0.8m 程度である。崩壊面に石が点在する。国有林の調査地はすべて花崗岩・マサ土の土質・地質ではない。

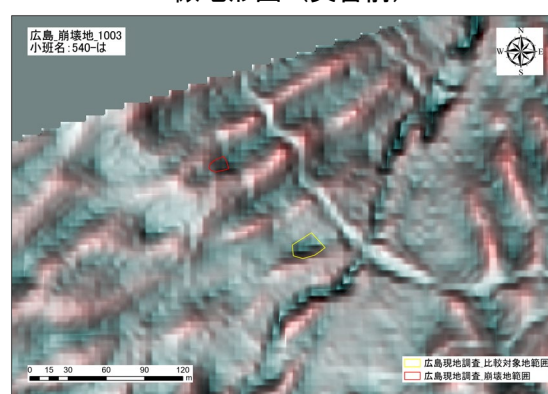
森林・施業) 造林簿、林班沿革簿から施業回数は 2 回、11 年生、25 年生時に施業を実施している。災害発生時は最終施業から 9 年経過している。植栽配列なども含めて調査すると立木密度は 1,650 本/ha 相当である。LP との立木密度の差は少ない。理由は、材積率 35% の間伐を実施し、樹冠に隙間が多くあること。樹高が大きくなり、下層植生などとの樹高差が広がり、樹木抽出が容易になったこと、などが考えられる。

その他) 特になし。

災害後オルソ



微地形図 (災害前)



崩壊地全景



小班	540 林班 は	
樹種	ヒノキ	
林齢	34	
最終施業年	2009間伐	
崩壊幅	9.1	
崩壊延長	10.2	
崩壊面積	77.7	
尾根谷度	平均	10.1
傾斜	平均	23.1
雨量	72時間	466.9
地質	デイサイト・流紋岩 大規模火砕流	
森林土壌	森林簿	

		LP	現地
崩壊深度[m]	源頭部	-0.1	2.0
	平均値	1.7	
	中央値	1.9	
	最大値	2.8	
	根系深度		0.8
土検棒	平均		0.7
	最大		1.4
LP	平均胸高直径[cm]	16.4	20.5
	平均樹高[m]	11.8	12.5
	立木密度[本/ha]	1,500	1,650
	断面積合計[m ³ /ha]	31.7	54.5